

# 親 鸞 思 想 の 解 明

会 場： 東京国際フォーラム G棟（地図は裏面を参照ください。）

※ ご参加の予約は不要です。

なお、満席の場合には先着順となりますのでご了承ください。（定員：80名）

日 時： 第118回 1月 9日（水）G棟510 18:30~20:30（受付 18:00）  
第119回 2月 1日（金）G棟502 18:30~20:30（受付 18:00）  
第120回 3月 1日（金）G棟502 18:30~20:30（受付 18:00）

講 題： 浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—

講 師： 親鸞仏教センター所長 本多弘之

テキスト： 『真宗聖典』〈ご希望の方は、東本願寺出版（下記）までご注文ください。〉

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

●インターネットでの書籍のお求めは、

URL <http://books.higashihonganji.or.jp>

TOMOぶっく

検索

click

聴講料： 無 料

※ 講義（問題提起）後、ご参加の方々との質疑応答の時間を設けております。  
お気軽にご参加ください。

## 講座開設の趣旨

現代文明の溢れる人間社会を<sup>あふ</sup>生きているものにとって、入手できる情報の範囲はずいぶん広がってはいる。しかし、生まれてから死ぬまで、それぞれの人が与えられる自己の状況に、自分自身が納得し、<sup>うなず</sup>ころから領けるかというなら、決してそうではない。一般的な条件と、ことさらに自分に起こってくる事件や事実との間には、どう考えても不条理だとしか考えられない落差が出てくるからである。その落差を、<sup>しゆくごういんねん</sup>仏教的表現では「宿業因縁」と教えるのであるが、この宿業因縁を自己に必然の事実であると引き受けることは容易ではない。

その落差の条件を<sup>ひゆ</sup>比喩的に表現するなら、「届かない<sup>かなた</sup>彼方」とか「見えざる背景」とか、あるいは「自己に<sup>ごうほう</sup>負荷されている祖先の業報」というのであろう。これは、<sup>ふんべつ</sup>理知分別の計数には決して翻訳できない人間の条件なのである。しかもそれが、現実のわれらの生存を厳粛に規定している。この宿業因縁の圧迫から解放しようとする要求が、「浄土を求めさせる要求」の深みにあるのではなからうか。

本多弘之

主 催：親鸞仏教センター（真宗大谷派）

〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901

E-mail [shinran-bc@higashihonganji.or.jp](mailto:shinran-bc@higashihonganji.or.jp)

URL <http://shinran-bc.higashihonganji.or.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/shinran.bc>

親鸞仏教センター

検索

click

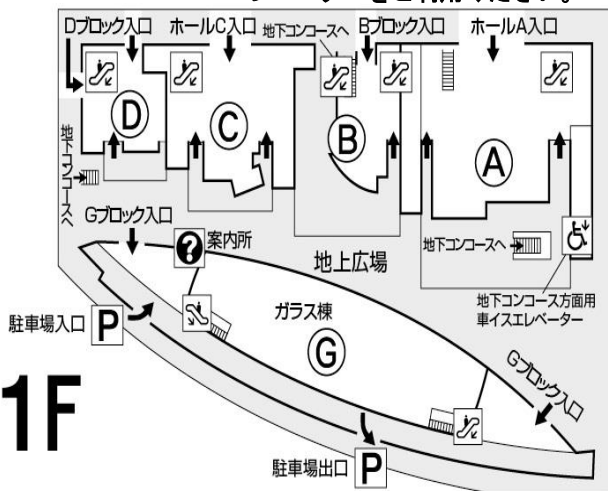
## 念々に妄念に死んで新しい命に甦る

凡夫の自我を依り処とする発想から、本願力を依り処とする、転換する。転換したら終わりではなく、転換するという一念は常に一念なのです。往生という事実は、本願力によって成り立つ生の転換を、新しい生に生まれると表現したわけです。だから、それは念々に生まれているわけです。念々に生命が生きているが如くに、念々に妄念に死んで新しい命に<sup>よみがえ</sup>甦るという事実がずっと続くわけです。そういうことが、親鸞聖人がいただいた、信の一念の内容としての「願生彼国、即得往生、住不退転」（『真宗聖典』44頁）という本願成就文のいただき方ではないかと思うのです。

そこには自分というものはないわけです。自分があってやっているわけではない。生命体の血液のはたらき一つをとっても自我がやっているわけではない。生命が生きているということは、もうどんどんとにかく栄養を取り込みながら新しい自己になりつつ生きているわけでしょう。一時として止まらない。生命というものは、変わりつつ変わらない。どうしてそうなっているかと言ってみても、そういうものなのですから。こんな不思議なことは生命でしか成り立たない。それを譬喩に使えば、この自我の命に死んで本願力の命に甦ることが念々に起こることは何の矛盾もないわけです。新しい自己になりつつ生きていくわけです。なりつつと言うと、だんだんというふうに、過程的プロセスではないかと考えてしまうけれど、そうではない。一念の事実の中に宗教的な事実をいただいて生きていくということなのです。

（『親鸞仏教センター通信』第67号〈第111回「親鸞思想の解明」〉より）

### 《場内案内図》 ※G棟会議室へは、地下1階のエレベーターをご利用ください。

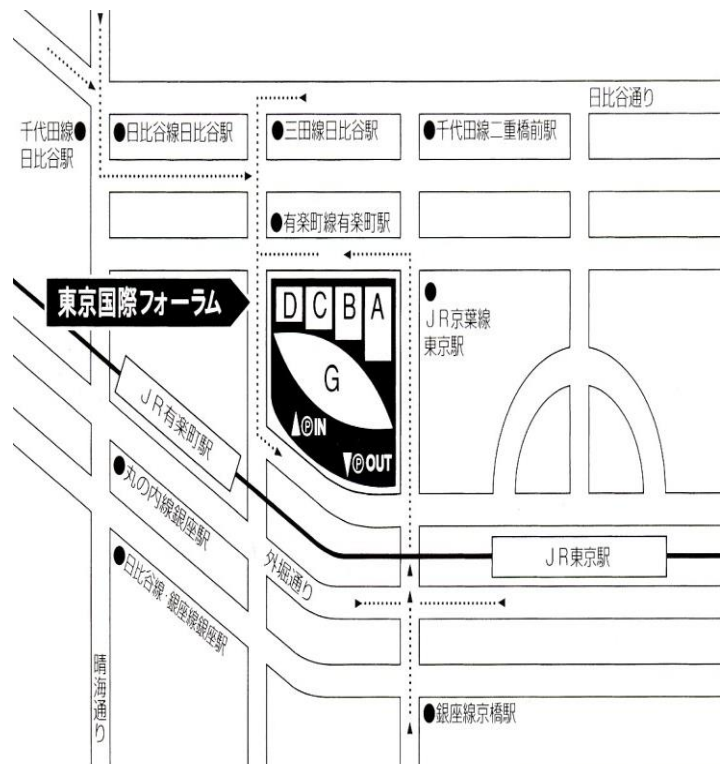


1F



地下1F

### 《会場までのアクセス》



A: ホールA B: ホールB7、ホールB5 C: ホールC D: ホールD7、ホールD5、ホールD1  
G: ロビー・ギャラリー、会議室、展示ホール

- JR線 有楽町駅より徒歩1分  
東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡）
- 地下鉄 有楽町線 有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡

→ 車輛導入路